

日田市内河川におけるアユ生育状況等調査(H30年8月9～10日実施分)結果表

調査箇所		調査結果	ハミ跡等の写真				河川毎の特徴傾向等
大山川	① 大宮沈下橋下流	①②両岸下流の瀬部分、③下流大岩の下の瀬(流芯)～淵部分で20%の割合でハミ跡あり。流れが強く、深い部分の個体サイズは22cm～大きいもので28cm程度と順調な生育状況。 ④その他よみ部分は全て同程度で5%程度の割合でハミ跡あり。個体サイズは流れのある部分より小ぶりか。 【水温25.1℃】 【採捕尾数:3尾、サイズは22～23cm】	④上流右岸	④上流右岸	④上流中央	①下流右岸	●上流から下流まで、まんべんなくアユが分布している状況。とくに③旧大山振興局裏地点はとくにいい生育状況であり、H26年度から実施してきた本調査のなかで、過去最高にいい状況といっているほどである。●また、7月5日の豪雨以降、河床の環境が激変しており、前回調査時まで「はまり石」が多く、魚の隠れ場所が乏しかったものが、水流により石が動かされたため、「浮き石」の割合が高くなっていた。また、水量増加の社会実験により水位が上昇したことに加えて、ダムから底水を放流してもらって冷たいきれいな水が流れ、水温の上昇が保たれている(例年より透明度が高いと思われる)。●このような環境の改善が、結果として良いアユの生育につながっているものと考えられる。また今回初めて、全地点の採捕調査でアユが1尾以上採捕できた。
	② 榎瀬橋下流	①岩盤より下流の瀬で10%程度のハミ跡あり。 ②岩盤部分、側面がザラザラした地形ではハミ跡が無いが、そこに点在している浮石にはしっかりとハミ跡があり、流れの強い部分で20%程度の割合。 ③堰より上流部分はあまり流れがないが、ハミ跡がさらに多く、割合は40%。 ・サイズは流れの強い部分で20～24cm程度。 【水温25.6℃】 【採捕尾数:5尾、サイズは23cm前後】	③上流堰の上	②上流堰と下流堰の間	②上流堰と下流堰の間	①下流右岸	
	③ 旧大山振興局裏	①左岸部分は流れがゆるく、ハミ跡10%。 ②中央下流、流れの強い部分で20%程度。 ③右岸下流付近瀬の落ち込み、流れ込みの白泡付近で30%程度のハミ跡あり。 ④右岸上流部においても、水深があるところに20%程度のハミ跡がしっかりと残っている。 【水温25.7℃】 【採捕尾数:5尾、サイズは22cm前後】	①上流左岸	④上流右岸	④上流右岸	②下流中央瀬	
	④ 竹の首沈橋付近	①下流、堰の下は中央部および右岸部に10～10%弱のハミ跡あり。 ②橋の直下から堰の手前、よみ部分で30%程度。 橋より上流部は全体的にハミ跡があるが、③右岸部で10%、④中央部の流れがゆるい部分では30～40%のハミ跡があり、サイズも22cm以上の個体の生育が見込まれる。 【水温24.7℃】 【採捕尾数:2尾、サイズは22cm前後】	上流左岸	④上流中央	③上流右岸	③上流右岸	
玖珠川	⑤ 天ヶ瀬温泉街	①上流、橋脚付近の流れが狭まっているところで10% ②中央部、流芯の瀬で10% ・基本的にアユの生育数が少ない。 ・大きくツルツルとした石のみに限定的にハミ跡がある。 ・ただし、個体サイズは大きく、27～28cm級がいると推定。 ・経路の割合がかなり高い。 【水温23.6℃】 ※専用区のため採捕行為せず。					●大山川同様、河床環境に関しては「浮き石」の割合が増加していたものの、アユの生育状況は大山川と比較して良くない。 ●大山川と異なる点は、水量が少ないこと、それゆえに夏場の猛暑の影響を強く受け、水温が上昇している点である。下流にいくにつれてハミ跡の状況は多少良くなっている点も指摘でき、7月豪雨で下流へと流された個体が、豪雨後に玖珠川に戻らず、より環境のいい場所を選択して分布が変わったことも推察できる。 ●もしくは、増水により三隈川の下流(夜明ダム付近)まで流された個体は、まだ玖珠川まで戻りきれないとも考えられる(三隈川の状況を参照)。
	⑥ 東溪中裏	・全体的にハミ跡は10%未満。 ・アユの個体サイズはバラツキがある感じ。 ・また、オイカワの生育数が多い。オイカワが多い地点はアユが少なく、逆にオイカワが少ない地点にアユが生育している。 【水温26.2℃】 【採捕尾数:1尾、サイズは23cm】					
	⑦ 小瀬橋上流	①右岸部下流、流れの緩い地点はオイカワの生育が多く、鮎のハミ跡は10%未満。 ②上流の瀬部分では、ややハミ跡が増え、大きくなるつるつるした石にはしっかりとハミ跡が確認できた。10%程度。 ③さらに下流では釣り人がいたため調査できなかったが、発電所から冷たい水が流れており、鮎が多く生育している可能性も大きい。 【水温26.8℃】 【採捕尾数:1尾、サイズは23cm】	①下流右岸	①下流右岸	②上流右岸	②上流右岸	
花月川	⑧ 御幸橋下流調査	・水位が低い。 ・水温が非常に高い。30℃を超えており、鮎が餌を食べる(住める)環境ではない。 ・ただし、地形的には鮎の産卵場となりえるような場所が多くある。 ・水面がキラキラと光るくらい、オイカワが大繁殖している。 【水温30.9℃】 ※採捕行為せず	No Image	No Image	No Image	No Image	●玖珠川よりもさらに水温が高く、依然としてアユの生育できる環境ではないと考えられる。前回調査時に見られたアユのハミ跡も今回は確認できず、当時残っていた個体も環境を求めて移動したか。●他方、オイカワにとっては住みやすい環境であり、環境の占有で抵抗するアユもいないためか異常繁殖している様子がうかがえる。
三隈川	⑨ 高瀬川合流点	<高瀬川> ①下流側は鮎の姿もハミ跡もなく、オイカワが大量に生育している。②上流側は鮎が多い。 <三隈川> ③全体的に古いハミ跡が多く、現在鮎が生育している感じではない。 【水温 三隈川25.2℃ 高瀬川26.4℃】 ※採捕行為せず	②高瀬川上流	③三隈川上流瀬	③三隈川上流瀬	③三隈川上流瀬	●⑩の三隈川下流では前回と比較して生育状況がよくなっており、7月豪雨の増水により流された個体が多く分布しているものと考えられる。 ●また、⑩の三隈川中流域では、本調査の1週間前に別調査で潜水したときはハミ跡がほとんど無かったのが、劇的にハミ跡が増加していた。これは、増水により下流に流された個体が再び上流に戻っていることの影響となる。 ●ただし、三隈川上流域に当たる⑨では、1週間前の別調査時と大した変化はなく、ハミ跡は少ない。よって、流された個体の遡上は少なくとも上流までは到達していないと考えられる。
	⑩ 花月川合流点	①②右岸の流れが速くなっている地点(やや中央より)で20%程度。 ・その他の部分でも比較的多くのハミ跡が確認できる。 ・全体的にコロコロ、つるつるした玉石が多く、餌場としても良好。 ・ただし、鮎のサイズは小さく、20～24cm前後が主。 ・花月川は土砂体積により鮎がいない。 【水温 三隈川26℃、花月川30.2℃】 ※採捕行為せず	②下流右岸	②下流右岸	①上流右岸	①上流右岸	
	⑪ TDK裏付近	・水流が早く、右岸は調査できなかったため左岸を中心に調査。 ①②全体的にまんべんなく20%程度のハミ跡があり、ハミ跡の大きさから推計すると、27～28cmの大型個体が分布している。 ・いい漁場である。 【水温26℃】 【採捕尾数:2尾、個体サイズは23cm、25.5cm】	②下流左岸	②下流左岸	①上流左岸瀬	③上流左岸瀬	
杖立川	⑫ 杖立温泉街	①堰下流、流れがある部分で40～50%のハミ跡あり。その他の部分でもほぼまんべんなくハミ跡が確認できる。目視で多くの鮎が確認でき、サイズは16～24cmで推移。 ※採捕行為せず	③堰下流瀬	③堰下流瀬	③堰下流瀬	目視個体(20cm程度)	●日田漁協管内のハミ跡状況が良いとはいえ、杖立川の状況に匹敵する地点はなく、うらやましいほどにハミ跡が多い。潜水せずとも、岸からの目視で十分にアユの姿を見ることが出来る。

注：本結果は、調査実施日時におけるアユの生育状況を石の食み跡、個体の目視及び漁獲調査により推定したものであり、アユの漁獲量の増加を保証するものではありません。